



インターンシップで 学んだこと

校長 地原 聡子
ち ほう さとこ

令和二年度がスタートして半年。新型コロナウイルスの出現で、世の中の様子が随分と変わりました。マスクを着用しアルコール消毒が日常、こんな事態になるうとは…。寮生活の本校は、もっと厳重です。入学式をはじめ他校との交流会など、多くの行事が縮小や中止となり、学生にはとても残念な気持ちにさせています。

そんな中、二十六日間のインターンシップを終え、二年生が帰ってきました。「作業のスピードが速くてついていけなかった」とか「農家の方の話を聞いて、『経営』を意識するようになった」といった声を聞き、学校では教えられないことをきちんと学んでいることに嬉しさを感じました。学生には、インターンシップでの気づきを忘れないで、さらに学校生活を充実させていって欲しいと思います。研修先の農家の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

スマート農業実習用機材及び 備品の贈呈いただきました

8月25日、県内3JAとJA共済鳥取より、本校のスマート農業技術の向上や教育実習環境の充実のため、最先端技術の農業実習用機材・備品「ロボット草刈り機」、「牛温恵」、「ソーラー自動かん水システム」、「少量量液肥混入器」他計11品目の寄贈をいただきました。



これは、JAグループの「地域活性化・農業生産者の育成に貢献する取り組み」の一環として寄贈をいただいたもので、本校としては、スマート農業教育の推進により、ロボット・AI・IoT等の先端技術の知識を持ち合せた農業後継者を育成することで、未来の農業に繋がたいと考えています。

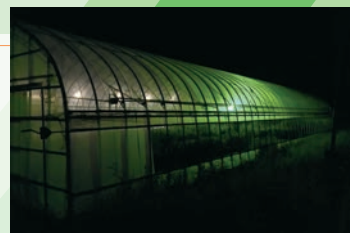
果樹コース（ロボット草刈り機）

果樹園の草刈りは、多くの時間と労力を要する大変な作業です。果樹コースは自動的に設定エリアの草刈りを行ってくれるロボット草刈り機を寄贈していただきました。部屋の掃除をしてくれるロボット掃除機の屋外版のようなものです。現在、梨ほ場の一部（約20a）で活用しています。美しく草が刈り揃えられた状態は、まるで公園のようで学生もびっくり！省力化の効果等を今後調査する予定です。



花きコース（防蛾ランプ）

キクの栽培では、夜蛾類の被害が重要な課題となっています。他の品目では早くから防蛾灯の有効性が認められていますが、光の影響で開花が左右されるキク栽培への導入は進んでいませんでした。しかし近年、キクの開花への影響が少ない防蛾灯が開発され、導入が進みつつあります。そこで花きコースにおいても、キク栽培における防蛾灯の有効性（開花への影響、被害軽減など）について確認、検証しているところです。



作物コース（歩行型除草機）

作物コースでは歩行型除草機が2台整備されました。1台は畦畔用のウィングモア、もう1台は法面用のスパイダーモアです。

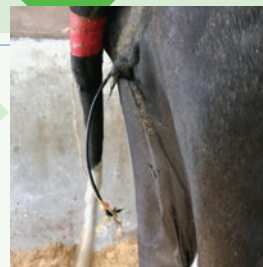
これまでの主体は刈払機でしたので、夏の暑い時期の長時間作業や傾斜がきつい場所での安全性が課題となっていました。

思ったより簡単に扱え、作業時間は大幅に短縮できました。作物コースの新戦力として活用していきたいと思います。



畜産コース（モバイル牛温恵）

本機は、牛の膣内に体温センサーを留置して体温を分単位で監視することで、分娩の徴候を一早く感知し、スマートフォン等にメールで通知を行ってくれます。さらに、分娩時にセンサー自体が胎膜によって膣外に押し出されるため顕著な温度低下が起き、再度メールで通知を行ってくれます。本機は2段階で分娩を知らせてくれるため精度が高く、出産時の事故を未然に事前に防ぐことが可能です。



野菜コース（ソーラー自動かん水システム）

野菜コースには、ソーラー自動かん水装置を寄贈していただきました。太陽光発電による電力で小型のポンプで水を汲み上げ、タンクに水を溜めます。この水を天候に応じて自動的にかん水できます。かん水設備の整っていない畑や、水の少ない場所でも自動的に均一に散水できます。今年度はこれを使って露地のナスを栽培しています。



研修科では、社会人を対象とした スキルアップ研修（長期・短期）を実施しています

「スキルアップ研修（長期）」

果樹、野菜、花き、作物、畜産から1部門を選択し、作付け・管理計画の作成から、管理作業の実践、出荷後の収支決算までの模擬経営を経験していただき、就農品目の栽培技術及び経営感覚の習得を目的とした1年間の研修を年2回（4月、10月）、年間15名を定員として実施しています。管理作業について、野菜専攻は研修科圃場で行い、その他部門は養成課程各コースの圃場等で行います。



「スキルアップ研修（短期）」

県内で栽培される主要野菜4品目（白ねぎ、ブロッコリー、スイカ、ミニトマト）について、植付準備から収穫までの一連の栽培管理を約4か月間で経験することができる品目別の基礎研修を実施しています。



令和
2
年度

農 大 市

去る7月9日、晴れ渡る青空のもと、本年度の農大市を開催しました。今年のテーマは、『「見て」「聞いて」「選ぶ」楽しさ きなんせ農大!!』。①お客様との交流機会を増やす、②農大のPRに繋げる、③新型コロナウイルス感染症対策の徹底を3本柱として、学生・研修生が主体となり、企画、準備や運営を行いました。ミニトマトの袋詰め販売、多肉植物の寄せ植え体験や、農大紹介パネルの設置、コース紹介動画の放映など、これまでの農大市には無い新企画を用意し、また、手指の消毒、入場口での検温、販売スペースへの入場者数の制限、レジの飛沫防止策などあらゆる感染症対策を施しました。

当日は約200名と例年以上に多くのお客様にお越しいただくことができました。ご来場誠にありがとうございました。

今年はコロナ禍で中止も検討されましたが、学生・研修生の農大市に対する熱い想い、毎年楽しみにしていただいているお客様の想いに応えるために開催を決断しました。お客様の満足度向上と安全性確保を第一に、学生、研修生や職員が丸となり、豊かなアイデアを盛り込むことで新しい農大市の形が実現できました。今年の農大市は販売実習の枠だけに収まらない、総合学習の機会となりました。



令和2年度

農業インターンシップ

今年度も7月下旬から9月末にかけて、養成課程の2年生22名が26日間の農業インターンシップに出かけました。農業インターンシップは、県内外の先進的農家や農業法人に学生を派遣する取り組みで、高度な栽培技術や販売のノウハウ、地域とのふれあいなど、農家生活の生の姿に接しながら、身をもって学びます。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、研修先は県内を中心とし、22名の2年生のうち、18名が県内で研修し、4名が県外で研修しました。県外の研修先は1名が富山県、3名が島根県でした。県外で研修した2名の学生は、実際に研修先で寝泊まりしながらの研修でしたが、普段と環境が大きく変わらな中で緊張や戸惑いを感じながらも、農業大学校の中では得ることのできない、かけがえのない経験ができたのではないかと思います。

農業インターンシップに出かけた22名の学生の皆さん、お疲れ様でした。そして学生を受け入れてくださいました農家の皆様、受け入れ先を紹介いただいた普及所の皆様、本当にありがとうございました。

果樹コース

なが お じゅん べい
長 尾 淳 平

私は、鳥取県湯梨浜町のブドウ農家である植原証さんの農園で研修させていただきました。植原さんはピオーネ、シャインマスカット、加工用ブドウを栽培しておられます。今回の研修で、私はピオーネの収穫、調整作業を主にさせていただきました。作業をしながら研修先の方々がいろいろなことを教えてくださったおかげで、楽しく研修を行うことが出来ました。

収穫したブドウを特秀、赤秀、青秀に分類しながら、「どういうものが特秀になるのか」「ブドウの顔となる部分の見せ方によって評価が変わる」というようなことを教えていただきました。最初はどこを見れば良いのかわかりませんでしたが、丁寧に教えていただいたおかげで、どうすれば見栄えが良くなるかがわかるようになりました。

植原農園では調製作業の際などに効率良く作業が行えるような工夫がたくさんあり、今後の専攻などで、効率よく作業ができるように試していきたいと思いました。



野菜コース

やま もと しゅん べい
山 本 隼 平

私は、鳥取県北栄町の中原農園で研修をさせていただきました。

中原農園さんは、スイカ、トマト、ブロッコリーなどを柱に、多品目の栽培をされており、直売所の出荷を中心に経営をされています。

主な研修内容は、トマトのホルモン処理、収穫、調整でした。他にもブロッコリーの定植、ハウスの補強、灌水チューブの移動などを体験させていただきました。調製作業は、農業大学校でも平日は毎日行うもので、慣れたものだったのですが、農家さんは自分の倍もの速度で調整をされていました。それは調整作業だけに限らず、追肥や灌水チューブの移動、除草までもが無駄の無い動きでした。それらは、「学校での農業」とは違い、「仕事としての農業」というものを強く感じる場面であり、良い経験でした。その他にも自分が新規就農するにあたって分からなかったことを、実体験を踏まえて聞かせていただき、とても貴重な体験ができました。



花きコース

きり はら たく や
桐 原 拓 也

私は、鳥取県日南町の花壇苗農家である足立園芸で研修をさせていただきました。足立園芸では、主にナデシコ、コスモス、パンジーやビオラ等の花壇苗に加え、野菜苗の生産をされており、関西方面を中心に出荷されています。

研修に行く前は緊張と不安でいっぱいでしたが、園主である足立さんの丁寧で優しい指導のおかげにより、楽しく、充実した研修をさせていただきました。

研修中の主な作業として、花壇苗が上に伸びるのを防ぐために行うスパーシング作業や、出荷を行うために商品を綺麗に整える出荷調整作業、他には、足立さんについて朝の作業前に行う圃場全体の見回りなどを行いました。その中で、あらためて圃場の見回りの重要性に気づかされました。ただ眺めるのではなく、苗の変化を見る、探す姿勢が大切であり、その変化に対応することが栽培管理だと足立さんから学びました。

この研修を終えて、研修で学んだ日々の観察を農大でも継続し、足立さんのように変化にあわせた対応（管理）ができる農家を目指したいと思います。



作物コース

なん ば だい すけ
難 波 大 輔

私は、八頭町にある有限会社田中農場で研修させていただきました。

田中農場ではのべ120haもの水田を管理されており、うるち米だけでなく、契約栽培で酒米なども作っておられました。主な作業内容は前半が草刈りとクサネム取り。後半は稲刈りと乾燥場での籾出し作業でした。他にもドローンでのミネラル散布やちょっとした畑作業もさせていただきました。

研修では農業を複数人で経営していく上で、従業員さんにいかに働いてもらうかを知る機会になりました。私は従業員さんと会話する機会が多く、仕事をするうえで会社や社長に求める労働体系や労働環境など教えてもらいました。私は今回の研修で規模を拡大する場合の苦労と人を雇う難しさを少し体感させていただきましたが、就農したときに生かしていこうと思いました。



畜産コース

いな た ふう か
稲 田 風 花

私は、島根県太田市で乳用牛約2,850頭を飼養する農業組合法人吉浦牧場で研修をさせていただきました。研修では主に搾乳と子牛の哺乳を担当させていただきました。搾乳頭数は約700頭で、私は夜搾乳（14時30分～12時）を外国人研修生3人と一緒に行いました。

その他、子牛の哺乳は昼当番（7時45分～17時30分）で、150頭の子牛にミルクを飲ませたり、調子の悪い子牛の治療や除角、去勢などもさせていただきました。

研修を通して、効率よく搾乳する方法や学校とは違う子牛の哺乳方法、コミュニケーションの大切さや出会いの喜びを学ぶことができました。

研修中に体調を崩すことがあり、場長夫妻には看病していただき大変お世話になりました。また、外国人研修生は、よく遊びに連れて行って下さり、ご飯に誘ってくださったりと仲良くしていただき、研修が終わった今でも連絡を取り合っています。研修を通じて幅広い人脈を作ることが出来ました。（右から2人目）



コロナ禍でも農大生は元気に頑張っています

今年はコロナの影響で休校や外出制限、イベント自粛など、新入生歓迎の焼肉大会も出来ていない状況ですが、学校では学生会を中心に、コロナの流行状況を勘案しながら、学生たちの交流とストレス発散を目的として、スポーツ大会を実施しました。農大生の元気な様子を写真でお知らせします。



令和3年度入学生を募集中です！

農業に関心と意欲のある方、農家非農家を問いません。自営就農はもちろんのこと、最近は農業法人等への雇用就農など就農のチャンスが広がっています。農業を目指す仲間とともに学びましょう。いろいろな就農支援制度を活用することもできます。

■募集人員

養成課程農業経営学科30名（推薦入学者を含む）
※出願時に果樹・野菜・花き・作物・畜産のコースを選択

■試験日程等

区 分	一般入学前期および社会人特別入学前期	一般入学後期および社会人特別入学後期
受付期間	令和2年10月26日(月)～11月13日(金)	令和3年1月4日(月)～1月22日(金)
試験日時	令和2年11月29日(日) 午前9時から	令和3年2月7日(日) 午前9時から
合格発表	令和2年12月4日(金) 正午	令和3年2月12日(金) 正午

■資料請求・問合せ先

教育研修担当（電話 0858-45-2411、ファクシミリ 0858-45-2412）



修農祭2020について

新型コロナウイルス感染症が収束していない状況を受け、参加者および学生、関係者の皆様の健康・安全面を第一に考慮した結果、11月に開催してありました毎年恒例の修農祭は、学生及び職員のための参加として開催することとします。楽しみにしていただきました皆様には、大変申し訳ありませんが何卒ご理解のほど宜しくお願いします。

なお、一刻も早く当感染症が収束し、来年こそ修農祭が盛大に行えることを学生及び職員一同で念じております。